三鷹市立大沢台小学校　令和8年度【国語】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・書く姿勢や鉛筆の持ち方が身に付いていない児童がいる。 ・ひらがなを読んだり、書いたりすることができるようになっているが、字形が崩れたり、雑に書いたりする児童がいる。 ・濁音や半濁音、拗音、促音などの使い方や助詞「は」「を」「へ」が身に付いていない児童がいる。 ・話を最後まで聞くことや、自分の思いや考えを明確に伝えることができない児童がいる。	**〈指導方法の課題〉** ・書く姿勢や鉛筆の持ち方を継続して行う必要がある。 ・丁寧に行うように伝えたり時間を長くとったりする。 ・話す、聞く、読む、書くの基礎指導を継続して行う必要がある。 ・自分の考えをもち、文で書き表したり、言葉で伝えたりする力を伸ばす指導を行う必要がある。 **〈授業改善策〉** ・書く姿勢や鉛筆の持ち方を掲示して視覚的に捉えやすくする。 ・字形や表記については、その都度直したり、上からなぞったりして正しい字形や表記を理解できるようにする。また、濁音や半濁音、拗音、促音などの定着を図るため、何度も繰り返し文章を読んだり、ノートに書いたりする。 ◎考える時間を十分に確保し、友達の発表を聞いて質問したり感想を伝えたりする場面を多く設定し、聞き合う楽しさが聞く姿勢につながるようにする。 ・話型を提示したり、発表用のメモを作ったりし、順序を考えて整理して伝えることができるようにする。 ・朝読書や図書の時間を確保し、語彙力を伸ばす。
第2学年	**〈成果〉** ・字形を捉えてひらがなを書く力は定着できた。 ・図書の時間の確保、サポート隊の読み聞かせ、朝読書などにより、本に親しむ時間を多くとることができた。 ・交流する場面を多く設定したことにより、聞き合う力が高まった。 **〈課題〉** ・書く姿勢や鉛筆の持ち方には、今後も繰り返し声をかける必要がある。 ・本に親しむ時間を多くとることができたが、語彙力は今後も伸ばすための手立てが必要である。 ・濁音や半濁音、拗音、促音などは、繰り返し指導が必要である。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・漢字学習への取り組み方や定着度は個人差がある。漢字の学習量が増えるとともに、漢字の意味を含めて正しく覚え、文の中で正しく使うことが難しくなってきている。 ・話し合いの中で自分の考えをもつことはできているが、発表することに抵抗がある児童や、うまく表現できない児童が見受けられる。 ・読書は、集中して取り組める児童が多くなってきたが、語彙を正しく理解しながら読み進められている児童は多くない。言語感覚については個人差がある。	**〈指導方法の課題〉** ・漢字などの文字学習や文型、作文用紙の使い方など基礎的な指導を教科書の学習と併せて計画的に行っていく必要がある。 ・話合い活動を行う前に、自身の考えをもち深めるための時間を多くとる必要がある。 ・発表や話合い活動を繰り返し行い、経験を積ませる必要がある。 **〈授業改善策〉** ・低学年の間に基礎的な知識を身に付けるために、他教科でも繰り返し学習内容を活用していけるように学習計画を工夫する。 ・自分の考えを根拠をもって伝えたり、お互いの考えのよいところを見付け、伝え合ったりする学習を意図的に繰り返し取り入れる。 ・朝読書の時間や国語の時間を中心に、読書の感想や言葉遊びなどを交流したり、実際の物と照らし合わせながら語彙に触れ合う場を設定したりして、正しく美しい言葉（語彙力）を身に付けさせていく。
第3学年	**〈成果〉** ・間違えが多い漢字をテストに出題することで、繰り返し練習できた。 ・文章を意欲的に書こうとする姿勢が身に付きつつある。 ・友達の意見や発表を聞き、自分の考えに反映する力が身に付きつつある。 **〈課題〉** ・漢字の習熟に個人差がある。 ・普段の作文の中で、既習の漢字を使う習慣が身に付いていない児童がいる。 ・作文において主語、述語のつながりや、時系列に沿って分かりやすく書く力に課題がある。	〈学習状況の現状と課題〉 ・漢字の練習の取り組みには差があり、しっかりと身に付いている児童とそうでない児童で差がある。 ・書き順を意識して書いている児童が少ない。字形が整っていなかったり、文字が雑になったりしている。 ・文章から登場人物の気持ちを考えたり、発問に対して抜き出して答えたりすることに苦手意識がある児童がいる。 ・作文など文章を書く力に差がある。	**〈指導方法の課題〉** ・漢字の学習では、新出漢字の練習が主になっている。 ・文章を書くときは、一文で終わらせるなど、時間の中で書き終えることに満足してしまっている。 ・自分の考えを表現する前に、十分に考える時間をとったり、言葉を知ったりする必要がある。 **〈授業改善策〉** ・漢字小テストは既習の漢字も取り入れるテストを手作りして実施する。再テストを実施して習った漢字の定着を図る。 ・文章を書く学習では、自分で推敲する時間をとるとともに、友達同士で読み合う時間を確保し、文章を高め合えるようにする。 ・日頃から文章を丁寧に読み、発問に対する答え方を意識させる。 ・朝読書や図書の時間に読書に親しむ時間を確保し、語彙力を伸ばす。
第4学年	**〈成果〉** ・ノートに書き留めた板書内容やメモをもとに文章を書く時間を確保してきたことで、順序だてて自分自身の思いや考えを書く力が高まってきた。 ・読書カードの活用で、本を楽しみながら読むことができた。 **〈課題〉** ・新出漢字への苦手意識が高い。 ・内容を具体的に書くことや、会話文を盛り込みながら、文章を工夫して書く力は不足している。 ・読書は、読む本のジャンルが固定化している児童が多い。	〈学習状況の現状と課題〉 ・漢字に対する苦手意識があり、練習への取り組み方にも差がある。また、字形を捉えて正しく書いたり、漢字を活用して文章を書いたりする力は全体的に低く、時間をかけて身に付けていく必要がある。 ・文章の読解力は全体的に身に付いてきているが、文章を細かく読み取ったり、文章から自分の考えを表現したりすることを苦手としている児童が多い。 ・文章を型に沿って順序立てて書くことはできている児童が多いが、自分の考えや具体的な内容を入れて、自分の力で文章をまとめていくことには課題がある。	**〈指導方法の課題〉** ・漢字の学習は、限られた時間の中で、新出漢字を読んだり書いたりすることが主となっている。 ・文章を読んだり、友達の考えを聞いたりして自分の考えを深め、文章に書く力を伸ばすための工夫が必要である。 ・自分の考えを相手に伝えるために、分かりやすく話したり書いたりするための力を伸ばす必要がある。 **〈授業改善策〉** ・漢字学習の際は熟語や読みかえた場合の使い方なども併せて学習し、文章の中で使えるようにする。また、読書を継続して行うことで語彙を増やしていく。 ◎文章を書くときにはあらかじめ構成を考えさせ、読み手を意識した分かりやすい文章を書くようにさせる。 ・説明文や物語文によって読むときのポイントを明示し、意識しながら読み深めることができるようにする。
第5学年	**〈成果〉** ・文章の読解力が高まった。 ・文章を型に沿って順序だてて書くことができるようになった。 **〈課題〉** ・漢字に対する苦手意識があり、練習への取り組み方にも差がある。また、漢字を正しく使って文章を書く力は全体的に低く、時間をかけて身に付けていく必要がある。 ・文章を細かく読み取ったり、文章から自分の考えを表現したりすることが苦手な児童がいる。 ・自分の考えや具体的な内容を入れて、自分の力で文章をまとめていくことには課題がある。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・漢字練習への取り組み方に差があり、漢字を正しく読み、書きができる児童が半数弱と少ない。また、漢字の意味を正しく理解し使う力は全体的に低く、時間をかけて身に付けていく必要がある。 ・文章の読解力は全体的に身に付いてきているが、文章を細かく読み取ったり、文章から自分の考えを表現したりすることを苦手としている児童がいる。 ・文章を順序立てすることはできている児童が多いが、話し言葉と書き言葉が分けられていないことや、主語がないことなど、文章を書くときに読み手を意識がきていない児童が少なくない。	**〈指導方法の課題〉** ・漢字を書く時間がICTの活用等によって減っている。 ・自分の考えを表現する前に、十分に考える時間をとったり、言葉を知ったりする必要がある。 ・文章読解では、文章の内容や、事実と意見を区別しながら読んでいく力を伸ばす必要がある。 **〈授業改善策〉** ・新出漢字の学習では、日ごろから漢字を使うような指導をするとともに、再テストなどを何度も繰り返し定着を図る。 ◎単元ごとに、どんな学習をしたいかを児童に考えさせたり、選択をさせたりすることで主体的に学習に取り組めるようにする。 ・説明文は、読み方を丁寧に指導するとともに、それを生かして自分でも書く活動を行うことで文章の内容を理解できるようにする。 ・定期的にビブリオバトル等を開催して本に親しもうとする時間を増やせるようにする。
第6学年	**〈成果〉** ・物語文では、登場人物の気持ちについて叙述を基に、深く考えられるようになった。 ・構成を意識しながら、繰り返し書く経験を重ねたことで、文章構成を意識できる児童が増えてきた。 **〈課題〉** ・長い文章を読むことに抵抗がある児童は、文章の内容を理解することが難しい。 ・読書量に差がある。 ・作文など文章を書くことが苦手な児童が多い。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・漢字を日常的に使う意識が低く、既習漢字を使えない児童がいる。 ・考えの根拠を示したり、本文を引用したりして表現することは個人差が大きい。 ・伝えたいことを明らかにして話したり、大事なところを落とさずに聞いたり書いたりすることが課題である。 ・説明文では、筆者の主張がどこに書かれているか見つけたり、事例をもとに伝えたいことを考えたりする児童が増えてきた。 ・物語文では、中心人物の心情の変化とそのきっかけを意識して考えようとしている。 ・読書の意欲に二極化が生まれ、読書量に差がある。	**〈指導方法の課題〉** ・漢字学習は、一人ひとりに合った覚え方を示していく必要がある。また、既習の漢字に関しては、普段から書くように指導しなければならない。 ・自分の考えを書いたり、話したりする前に、十分に考える時間をつくる必要がある。 ・読書の時間を増やすだけでなく、読書を楽しめるような工夫をする必要がある。 **〈授業改善策〉** ・漢字学習では、自分自身に合った学習の仕方を考えさせ、覚える意識をもたせながら指導を行う。 ◎書いたり、話したりする前に、伝えたい内容の中心を明確にできるようなワークシートを作成したり、ノートを工夫させたりして文章構成を意識させる。 ・図書委員会や係活動などを生かし、本の紹介をしたり、おすすめ本の紹介カードを掲示したりすることで児童が意欲的に読書できる環境をつくる。